



研究部だより No.4

研究主題
新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる
～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～

令和4年6月発行

全校授業研究会 中学部

中学部2年 生活単元学習 ピザ7～中1と交流会をしよう～

〈わかはとモデルより、特に高めたい要素〉

【人と関わる】

- ・話し合い活動の場を設定し、自分の考えを伝えたり、友達の意見を受け入れたりする姿
- ・自分の気持ちを伝えたり、友達の気持ちを受け入れたりしながら課題解決する姿

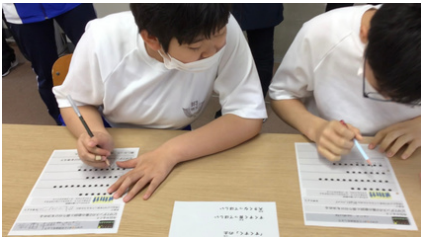
【試す】

- ・これまでの経験を思い出しながら、交流相手が喜んでくれるように準備したり工夫したりして交流する姿



〈授業者のしかけ〉

ワークシートやミニキーボードを活用し、話し合い活動からピザ7ダンスの歌詞を決める。



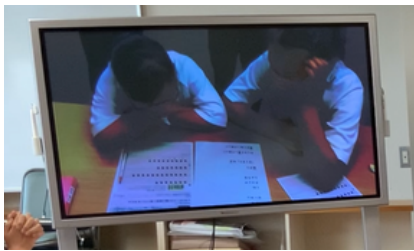
【生徒の様子】

- ・ワークシートの歌詞を入れる音数を●で表示したことで、それを手掛かりにして考えていた。
- ・ペアでの話し合い→全体での話し合いをすることで、3つの意見が出てきて歌詞が決まるまでに時間がかかったが、みんなの意見から歌詞と振り付けを決めることができた。



〈授業者のしかけ〉

授業の最後の振り返りで話し合いや振り付けの様子の動画を見る機会を設定する。



【生徒の様子】

- ・動画を見る場面では、他のグループも話し合いをしていたことが分かり、友達も頑張っていたことを知ることができた。
- ・振り返りの記入では、「歌詞を考えることは難しかったけど振り付けを決めることが楽しかった」と記入していた。



【キーボードに合わせて歌詞を考える】

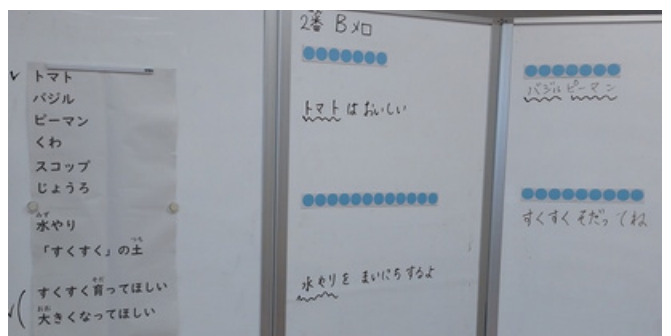
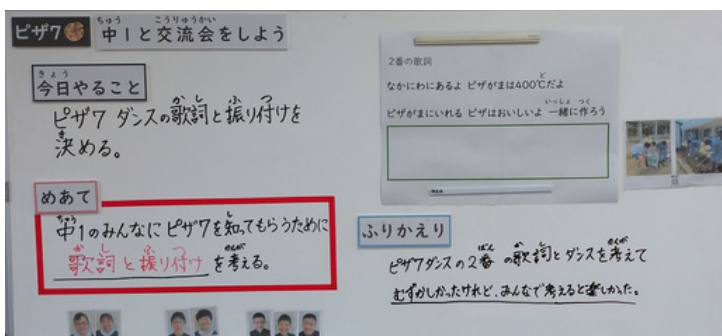


【みんなで振り付けを考える】



【動画で振り返りをする】

〈授業当日の板書〉



授業で書きたい 発表	授業で見られた生徒の姿		授業について					
【人と関わる】 人とつながりをつくらう	机と椅子を一緒に移動	グループの友達の様子を見て歌詞を書く	グループで出し合った歌詞を相手し合う	Tを合してグループ内がつながる	生徒の考えたアイデアに「あーいいね」	1年生に合わせるためにどちらか一方の確執	話し合いに入る前にどんな案に話し合うかの確認	交流相手の写真があればいい
	友達の意見を聞いて「いい」と言う	QとAのやりとり、Aの言葉掛けを聞いて「これ」と話す。	Tを合してグループ内がつながる	キーボードをお互いに集合させやすい位置に置く。	音楽の効果をキーボードで確認	振り付けアイデアがほとんど出ていた	最初に自分の意見と友達の意見を大事にすることを確認	生徒前士のやりとりをもっとみたい
【試す】 試してみよう	2番の歌詞の確認。曲がかかると歌ったり踊ったりした。	ホワイトボードを見て考える。	人によってはヒントを示していない	個→グループ→全体で広げていく	ピアノのメロディ	軸を定めて活動の時間確保	歌詞のイラスト化	判断基準の提示
	動きながらダンスを考えていた。	歌いながらフレーズを考えていた。	歌詞を選ぶための基準があればいい	話し合いがメインであれば、前時にアイデアを出し合う	●●で文字数を絞る。グループへ配付	考えを引き出すきっかけづくり	生徒の意見を消すより赤線で強調する	写真で視覚的に見通しをもたせては
改善策	話し合いの基準やルールを示す 話し合いのスタイル(机上にこだわらない) 個→グループ→全体で話し合う 生徒の考え、曲の全体像の視覚化 黄色い付箋:生徒の姿 青い付箋:授業でよかった点 赤い付箋:授業で改善できそうな点							

- 【協議で話題になった内容 改善点】
- 話し合い活動における留意点などを示してもよかった。
 - ワークシートがグループに1枚でもよかったのでは。
 - 歌詞を決める基準や判断材料があればよかった。
 - 相手を意識するために、中1の写真があればよかった。
 - 歌詞を決める際に絵やイラストがあるとイメージしやすかったのではないかな。
 - 思考プロセスの可視化ができればよい。

研究協力者の先生から

〈秋田大学教育文化学部准教授 谷村佳則先生〉

○研究について

- 授業づくりの「わかはとモデル」は、学校全体で統一されており、非常に分かりやすい。
- 単元を検討する「つながりミーティング」を継続して進めてほしい。
- 児童生徒の変容の可視化については、学習指導要領にも表面的な活動で評価するのではなく、意欲、態度の可視化が重要であると述べられている。分かりやすくまとめてほしい。

○授業について

- 生徒は歌詞を真剣に考えているが、課題が難しいからか、活気がなかった。一方で、振り付けを考えるとときは、とても楽しそうな様子だった。生徒が生き生きとする授業展開の工夫がほしい。

〈秋田大学大学院教授 武田篤先生〉

- 教師が生徒に教えるのではなく、子どもたちに考えてもらうように設定する必要があり、今回の授業では、「子どもたちに決めてもらいたい」という思いが伝わってきた。
- 子どもたちに考えさせる状況を教師が保障していくことが大切であり、設定されていた。
- 教師は教えるというより、「いいね！」とコーチングをして意見を引き出していくことがこれから必要になってくると思うが、グループワークの中で教師の支援として見られた。
- ペアリング、グルーピングのやりとりは、アクティブラーニングのやり方であり、授業の中に設定されていた。すぐにグループ活動が活発になるものではないため、経験を積んでいく必要がある。
- 今までは、高等部卒業がゴールでそこまで力を付けさせなければいけないと思っていたが、「生涯学習力」の視点でどのようにつなげ、学校時代に力を付けるかが大事である。学校は世の中に出るための準備であり、足りないものは、世の中に出てから獲得すべきである。

〈能代市教育委員会特別支援教育総括コーディネーター 加賀谷勝先生〉

- 本単元だけでなく、生涯学習の視点で考えると生活全般を見渡しての評価も大事にしてほしい。
- 生徒は、やる事が分かり、見通しをもっていて、導入がよかった。もっと導入を短くして進めてもいいし、生徒に任せられることができる役割はぜひ任せてほしい。
- ワークシートの中にある●のマークや、キーボードで音を出して歌詞を考える活動がよかった。
- グループの中で司会、記録、発表など役割分担をして進める方法もある。
- 話を聞くとときや話すときのルールづくりをしてほしい。(椅子を入れる、理由を付けて話すなど)
- 歌のテーマを伝えたり、歌詞のつながりを示したり、中1のために作ることをもっと伝えてほしい。
- じっくり子どもの声を聞き、考えや動きを待っている教師の姿勢がよかった。
- 授業における教師の役割とかけて、初めての盆栽ととく→(その心は)まつ(待つ、松)と、きく(聞く、菊)が大事!